

# 令和3年度 経営発達支援計画 地域経済動向調査

## 調査目的

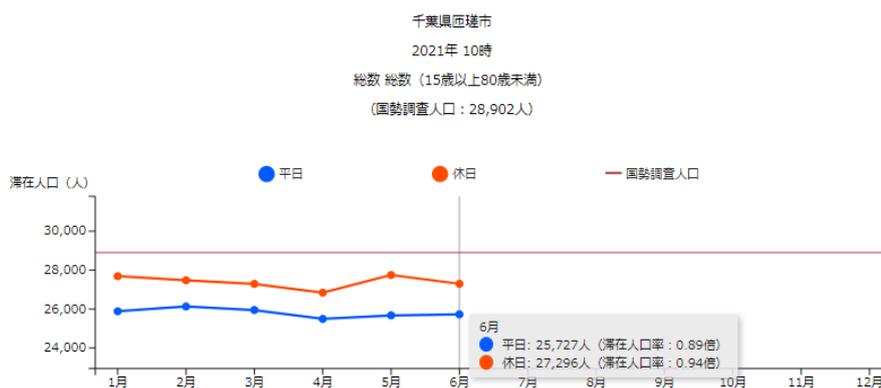
当地域の産業・経済の現状を把握する事を目的とし、国が提供する RESAS を活用した地域経済動向分析を行う。

## 調査結果

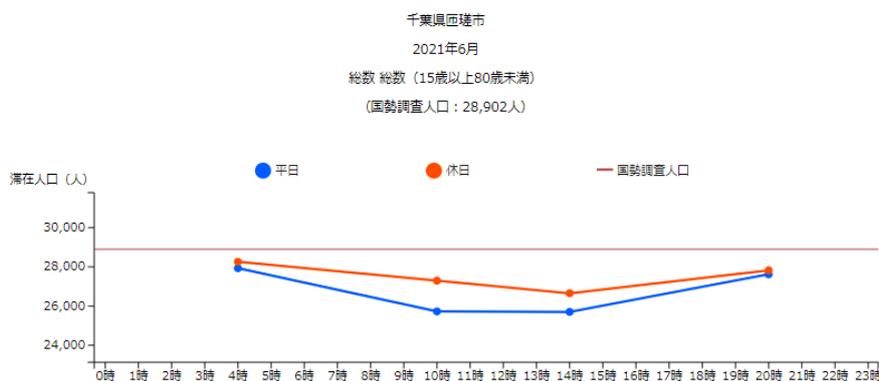
### ①滞在人口に関する結果

滞在人口の構成は千葉県内が 25,219 人で地域内割合が 97.89%であり、県外からは隣県である茨城県が1位、続いて、東京都、神奈川県の構成となっている。滞在人口の月別及び時間別推移は以下の図のとおり。

### 滞在人口の月別推移



### 滞在人口の時間別推移



【出典】  
株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」  
総務省「平成27年国勢調査」

【注記】  
滞在人口率は、滞在人口（株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」）÷国勢調査人口（総務省「国勢調査」夜間人口）で表される。

滞在人口とは、指定地域の指定時間（4時、10時、14時、20時）に滞在していた人数の月間平均値（平日・休日別）を表している。

携帯電話の運用データについては国籍に関わらず契約者のデータが使用されていることから、

滞在人口の算出には国内に居住する外国人も推計として含まれている。

滞在人口の時間別推移から見ると、4時の滞在人口が一番多く、次いで20時が多い事が分かる。また、流入人口からは旭市、銚子市、横芝光町、香取市、山武市からの流入が多く、流出人口からは旭市、横芝光町、山武市、多古町、成田市からの流出が多い事が分かる。

これは通勤通学による自治体間移動が多く、10時から14時の昼間人口が低い事から近隣市町村のベッドタウンとして機能している事が推測される。

## ②匝瑳市内の産業

### 企業数

卸売・小売業 350 社、建設業 263 社、生活関連サービス業・娯楽業 160 社

### 従業員数

製造業 3,747 人、医療・福祉業 2,113 人、卸売・小売業 2,095 人

### 売上高

製造業 85,874 百万円、卸売・小売業 48,997 百万円、建設業 7,125 百万円

### 付加価値額

製造業 18,530 百万円、医療・福祉業 9,334 百万円、卸売・小売業 7,915 百万円

滞在人口の自治体間移動から10時から14時の昼間人口が低い事、早朝4時及び夜間20時以降で滞在人口の多い事から通勤通学による人口流動である事が推測される。人口流動の詳細を分析する必要はあるが、商店街事業活性化の観点からすれば、「店舗の営業時間の延長」といった対策が必要だと考察できる。しかし、店舗時間の延長となると「人員体制」等の新たな課題もある。

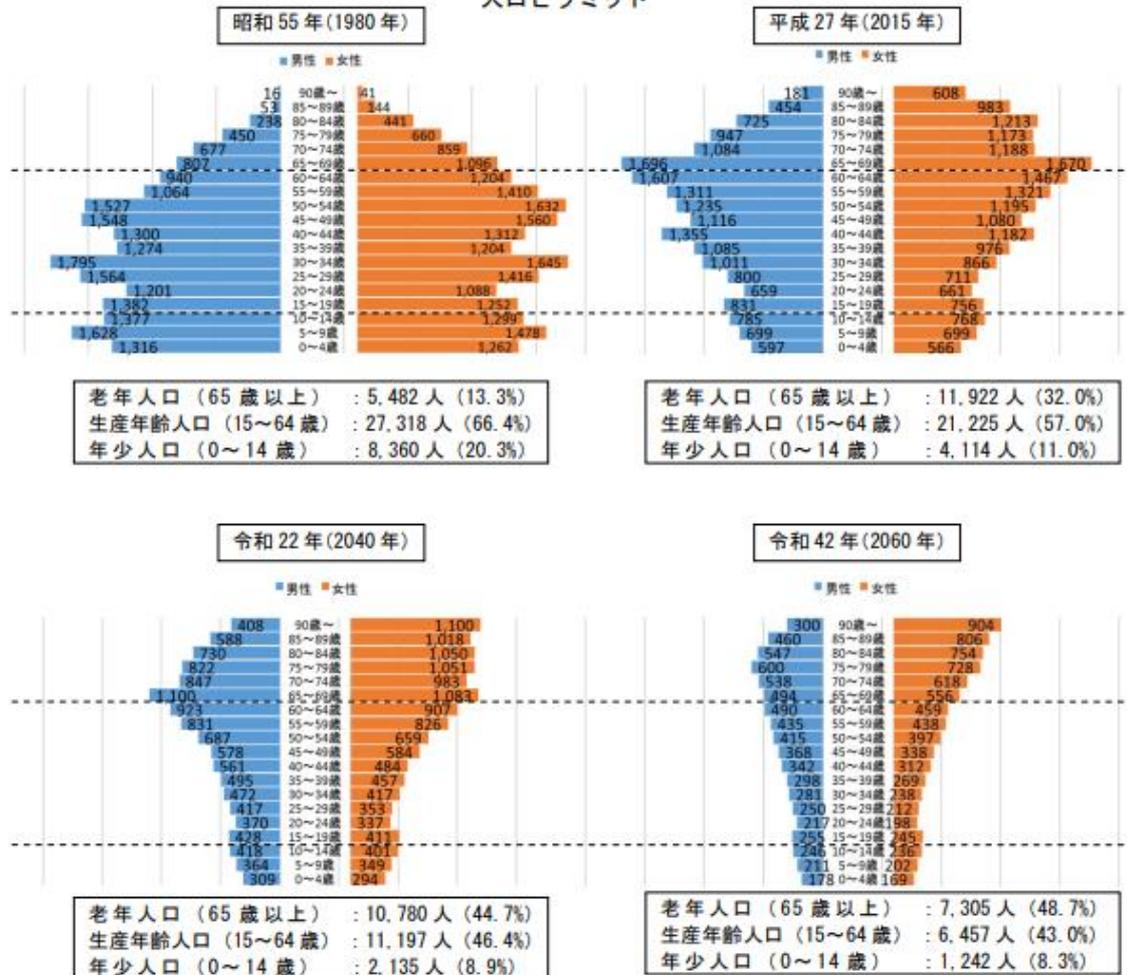
市内の産業を見ると、卸売・小売業が一番多く、次いで建設業、生活関連サービス業・娯楽業となっている。従業員数の指標で見れば、製造業が一番多くなっており、次いで医療・福祉業と卸売・小売業が続いている。

匝瑳市内の人口ピラミッドから分析すると、今後市内の高齢化が顕著となるため、医療・福祉業関連の成長が見込まれる事が考察できる。

昭和55年(1980年)と平成22年(2010年)の人口ピラミッドを比較すると、形状が「釣り鐘型」から「つぼ型」に変化し、第1次ベビーブーム世代(団塊の世代)の層の厚みが大きい形状となっています。

少子高齢化に伴い、老年人口が増加している一方で、年少人口が減少しています。今後高齢者が増えることで、福祉や医療などにかかる費用が増大し、働き手・子育て世代と子どもが減ることで、経済・地域社会の衰退、本市の将来の存続が懸念されます。

### 人口ピラミッド



資料：S55(1980)～H27(2015)の実績値・・・総務省「国勢調査」  
 R2(2020)～R27(2045)の推計値・・・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」  
 R32(2050)～R42(2060)の推計値・・・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に  
 基づきまち・ひと・しごと創生本部作成